

配信事業者からみた PC オーディオとネットワークオーディオ

株式会社クリプトン HQM 事業室長

樋泉 史彦

1. はじめに

DRM (Digital Right Management) フリーのハイレゾ音源専門配信サイトとして KRIPTON HQM Store が 2009 年 6 月末にサービスを開始して以来 3 年近くになる。この間、お客様から寄せられたお問い合わせを基に、PC オーディオ、あるいは、ネットワーク・オーディオの変遷を以下に紹介し、そこから、メーカー、及び、配信事業者に求められるものを提起してみたい。

2. 配信開始 1 年目

ダウンロードした音楽データをスペアナで解析された結果を基にした質問など、お問い合わせの内容は専門的なものがほとんどであった。

再生機器もパソコンに拡張基板を取り付けて Firewire や SPDI/F で DAC に接続する形式が多く、音源は CD をリッピングしてアップサンプリングされる、いわゆる PC オーディオマニアの方が 7 割、残りは専門店まかせで海外製高級ネットワーク・プレーヤを利用する方が 3 割といった割合であった。

3. 配信開始 2 年目

USB DAC の普及とともに再生方法 (パソコンで使用するプレーヤ・ソフト等) についてのお問い合わせが多くなった。一応、パソコンのスキルはあるが、USB DAC での音楽再生には不慣れと言った感じのお客様が主流。

HQM Store でも WindowsOS の各バージョン、及び、Mac OS の再生環境を構築、種々のプレーヤ・ソフトをテストして、お客様からの質問に対応出来る体制を整えた。

4. 配信開始 3 年目

PC オーディオ、あるいは、ネットワーク・オーディオの普及とともに、お問い合わせの内容が大きく変わった。

ダウンロードの仕方が分からない、ダウンロードしたファイルがどこにあるか分からない、なかにはダウンロードしたファイルが再生出来ないとのことで調べてみると、実際にはダウンロードされていなかった、あるいは、ダウンロードしたデータを NAS にコピーする操作が分からない等、明らかにパソコン初心者と思われる方が大幅に増えた。(なかには、パソコンを始めて 2 ヶ月と言う 68 才の男性も)

いわゆる PC オーディオマニアではない、一般のオーディオマニアが主流になってきたとも言える。

そのため、HQM Store では専用のダウンローダー・ソフト (ダウンロード・マネージャー)

を開発・導入したところ、ダウンロードについてのお問い合わせが激減した。

また、再生機器は、国産ネットワーク・プレーヤが増加傾向を示した。

5. 利用者像

現時点での利用者像は、次の通り。

- ・年齢：60代を中心とした熟年層が中心
- ・オーディオ歴：数十年以上に渡る方が多い
- ・性別：男性が大部分
- ・パソコンのスキル：ハイレゾ音源を聞きたいためにパソコンを始められた初心者の方が多。

6. メーカー、及び、配信事業者に求められるもの

現在の利用者は、前述の「5. 利用者像」で示した様な古くからのオーディオマニア層であり、パソコンのスキルが未熟であっても良い音で聴くためのチャレンジ精神が旺盛で、少々の手間暇は惜しまない方が中心。(アナログ・レコードの愛好家に通じるところがある)

今後、さらに市場の大きな一般音楽ファン層まで取り込むためには、CDと同様に、パソコンやネットワークを意識することなく、手軽に利用できるシステムの提供が不可欠と思われる。

具体的には、主要ユーザーである熟年層に配慮した、次のような点がポイントとなる。

(1) 配信サイトと再生機器間のワンストップ化

- ・PCを介せず、再生機器上のディスプレイにより、楽曲の購入・ダウンロードが可能
- ・そのためには、メーカーと配信事業者で共通の Protokol 制定が必要

(2) 再生の簡素化

- ・スマートフォン等によらず、再生機器上のディスプレイにより、楽曲の選択・再生が可能

(3) 熟年層向けリモコンの導入

- ・現状は、スマートフォンやタブレット端末を使用したものが主流であるが、熟年層の場合は、タッチパネルは扱いづらく、さらに Wi-Fi 環境構築が難しいため、TV と同じ IR のリモコンと前述再生機器上のディスプレイ、及び、階層メニューの組み合わせが望ましい。(筆者が、以前、在籍していたメーカーで開発した熟年層向け制御端末での結果による。)
- ・また、Wi-Fi 端末の場合 DLNA システムに於けるセッション数の増加を招き、処理遅れによる音質劣化の要因となるリスクもあるため、高音質重視の意味でも IR によるものが望ましい。
- ・IR リモコンの事例として 2006 年に発売販売された SLIM DEVICES 社(その後 Logitech 社が吸収)の Transporter があげられる。ネットワーク・プレーヤーの先駆けで、DLNA ではなく、オリジナルのストリーミング・サーバー・ソフト SqueezeCenter、および、IR リモコン(別売で Wi-Fi タイプのリモコンもあり)を組み合わせる使用することにより、前述の階層メニューによる操作を実現、HQM Store オープン前のユーザー環境実証実験で使用したが、快適に操作することが出来た。

参考までに Transporter とリモコンの写真を図 1、図 2 に示す。



図 1. Transpoter



図 2. IR リモコン（向かって左）と Wi-Fi リモコン（同右）

執筆者プロフィール

樋泉 史彦（ひいずみ ふみひこ）

1947 年生まれ。三菱プレジジョン株式会社で LAN システムの開発、株式会社 KDDI で Web ソリューション事業を手がけたのち現職。中学時代以来のオーディオ・マニアでもある。